

じょうきょうじ

浄敬寺だより



発行日 平成二十九年八月十三日 第二十九号

【法語】

ごうえん

さるべき業縁のもよおせば、
いかなるふまいもすべし

（『歎異抄』第十三章）

【解説】

テレビやネットのニュースには、次々と新しい「悪人」が映し出され、時には度を超えた批判や中傷も目にします。しかし、「私は決してそのようなふまいはしない」という確証のある人がどれだけいるでしょうか。縁さえ整えば、いかなる振る舞いをもしてしまいう自分であるという、自覚を失わずにいたいものです。

あの偉い発明家も凶悪な犯罪者も
みんな昔子どもだってね

(The Yellow Monkey 『JAM』)

昨年再結成を果たしたロックバンド、若い頃魅かれたその曲や詩の中に、あらためて仏教とも繋がるメッセージを見出しております。みんな同じ人間なのです。

1

2017 年前半写真展

浄敬寺同朋の会登録完了記念写真



はじめまして



はじめまして
弥空（みそら）です ↑
↓ 東京ドームのイベントにて



夏休みおたのしみ会(8/6)



夏の法話会



盆参会



報恩講お引き上げ



☆巻頭法話☆

八月に入つてようやく梅雨明けしたかと思えば連日の厳しい暑さ、そして思いもかけない台風の襲来、大雨で全国至るところでの洪水被害、本当に異常な気象が続いています。最近では異常気象という言葉も使われ過ぎて、何が普通で何が異常かさえもよく分かりません。気象の問題だけでなく、世界情勢に目をやっても、アメリカのトランプ大統領誕生以来の混乱や北朝鮮の核開発問題、日本においては政治家が関係した様々な問題など、これらも異常といえれば異常と言わねばなりません。外国のことはともかく、日本の政治の混乱の要因は、森友問題や加計問題等、その真相が国民に分からないことに起因しているだけに忸怩(じくじ)たるものがあります。国民の信を受け、政治を負託されている立場にある方々はくれぐれも謙虚かつ清廉(最低限)であつて欲しいものです。そのような中でも某女性議員の暴言には驚かされました。テレビのワイドショーで取り上げられない日はないほど話題沸騰でした。報道されていることが真実であれば、まさにじめめの政治家版であつて到底許されるものではありません。何より許されないのは、当事者が何の説明・謝罪もなく病院に入院して顔を出さないことでしょう。何か問題を起こすと入院してほとぼりが冷めるの

を待つというのは政治家の常套(じょうとう)手段のようですが、いじめが社会問題となっている現在、政治を司る国会議員本人が何の説明責任も果たさず、国会そのものも何の行動も取らないということとはあつてはならないことだと思います。政治不信が深まらないよう対応を願いたいものです。

宗祖親鸞聖人が御同朋・御同行とおっしゃられ、共に念仏をいただく仲間として全ての人々を尊敬されていた姿は、真宗大谷派において現在同朋会運動という形で展開されています。そこには人間全てが共に仏弟子として尊い「いのち」をいただいているということが根底にあります。そしてそこでは、立場の違いや地位の違いを超えて、お互いを尊敬し合つて生きていくという道が開かれていくのであつて、決して他の存在を否定したり、踏みにじつたりする事などあつてはならないことです。いじめはまさに他者の否定です。学校現場だけで起こっていると思つていた問題が、社会の歪(ひずみ)を正していくべき政治家の世界でも起こつていたということは由々しき問題です。私達一人ひとりが、「共に生きる」社会の実現、「心と心の通じ合う」社会の実現のために何ができるのか、いま一度考えてみる必要があると思います。

先般三女に初子が生まれたのを機会に、従来のガラケー・携帯からスマホに替えました。家内も坊守会(ぼ

うもりかい)の役柄上必要と考え、一緒に切り替えました。瞬時に綺麗な写真も撮れますし、様々な情報も得ることができ、何かと便利だとは思いますが、いかんせんまだ使いこなせません。ところ構わず常にスマホをいじっている人を白い目で見ていましたが、今まさに自分がそうなっているようです。しかし、電車の中で八割方の人が黙々とスマホを操作している姿が異常に見えるのは私だけではないと思います。普通と異常が混沌としている現在ですが、何でも便利になつてきた社会は、人と人の心の繋がりを奪ってしまふ社会の様にも見えます。「人のわるき事は、能く能くみゆるなり。わがみのわるき事は、おぼえざるものなり。」(蓮如上人御一代記聞書)まさに自分の姿を言い当てられているお言葉ですが、お念仏の教えに我が身を映しながら、日々歩ませていただきたいと思っています。

合掌

(住 職)

☆庫裡便り (坊 守)

◎真宗本廟春の法要



毎年四月一日は本山で音楽法要が勤まります。長年の念願だったこの法要に百名余りの合唱団の一員として参加してきました。

ました。御影堂での南無阿弥陀仏の合唱にただただ感動してまいりました。来年の四月一日の法要にご門徒の皆様との参詣を計画しました。是非ご参加くださいますようお願い致します。京都の素晴らしい桜も見てまいりましょう。

◎坊守会の役員を務めます

十組じゅうそという大きな組織の中に坊守会(ぼうもりかい)があります。その会長を三年間務めさせていただくことになりました。その上、三条教区の坊守会長まで仰せつかり、余りの重責に憂うつになりましたが、寺族一同に励まされ、本山研修に行つて参りました。三条別院にも通うことが多くなりますが、よろしくお願いいたします。

◎四人目の孫が誕生しました

秋田に嫁いだ三女朋恵に七月三日、長女みそらの弥空が誕生しました。「かわいい」と我が子を見つめる姿に、親にさせてもらった力強さを感じています。三人の内孫達も大喜びで優しくあやしてくれています。

◎二女千晶のこと

二女千晶は七月三日、スターウオーズナイターというイベントに呼ばれ、東京ドームナイター、日本ハム対西武戦の始球式をさせてもらいました。三女朋恵の出産予定日で、なんと陣痛も始まった中を住職が代表して応援に行つてきました。テレビ放映は地上波では放送が無く、急遽スカパーの契約をして家族一同見ることができました。

☆二〇一七年前半を振り返って

◎春彼岸（お中日三月二十日）法話 住職

一枚の紙に表と裏があるように、人間には前姿と後姿があつて自分が成立します。自分の人生を、自分の力と努力で築いたと思うなら、それは自分の前姿は分かっても後姿を知らないことであり、つまり自己を知らない人と言わざるを得ません。私の背中となつて、私を生かし、私を動かしてきた大いなるいのちの歴史―南無阿弥陀仏―に目覚め、懺悔と感謝の誠を尽くすのが彼岸の意義と心ではないでしょうか。

◎報恩講お引き上げ（五月十九日）絵解き法話 今泉温資師

年中行事の中でも真宗門徒にとって最も大切な行事が報恩講です。親鸞聖人があきらかにされた本願念仏をいただき、日頃の自分の生き方を問い直す機会として、大切にお勤めしています。

お馴染みの今泉先生からは、親鸞聖人御絵伝の絵解き法話をお聞きし、勤行は市内法中寺院方から参勤いただき荘厳な法要となりました。受付やおときには、例年通り下原地区の皆様からお手伝いいただきました。

写真は登高座にて「嘆徳文」を拝読する住職。

報恩講ならではの一枚です。



◎夏の法話会（六月二十五日）法話 草間法照 師

小千谷市・勝覚寺ご住職の草間法照師よりお話いただきました。私たちは、こうすれば何とかなるのではないか？と思い、自分の思う善行を積み重ねます。阿弥陀如来は、そういった自力の心も切り捨ててることなく認めつつ、それでも寄り添うと願われたのが第十九願です。寄り添うことで、いずれ自力の心では救われないうこととに目覚めさせ、依るものがない衆生を見捨てないと立てた願ひ

が第二十願です。そこに到り、お念仏に依りなさいと、お念仏を促すために立てた願ひが、第十八願です。

阿弥陀様は人間の性質をよく熟知した上で、三本構えで衆生を救う願ひを立てられました。お念仏をすることは確かに簡単です。簡単過ぎるからこそ、衆生がお念仏することに疑いの心が出ることも阿弥陀様は、始めから分かっていたのです。そんな阿弥陀様に感動して比叡山を下り、お念仏することを選ばれたのが親鸞聖人です。そんな親鸞聖人のお言葉を聞こうと集まれるのが真宗門徒です。こういった法話会を是非、大切にして親鸞聖人のお言葉に触れていただきたいです。

（ 当院 記 ）

◎盆参会（七月十四・十五日）法話 住職・当院

盆内とも呼ばれる新潟県中越地方独特の行事で、直接のご先祖の縁の寺にお参りいただく法縁です。

新盆法要も兼ねて勤めておりますので、ご家族が亡くなられて初めてのお盆（新盆）を迎えられる方には葉書にてご案内しております。亡くなられた方を「仏さま」としていただく生活を御門徒の皆様にお伝えしていきたいと思っております。

十五日の法話は、当院が担当しました。私たちの日常とは「聞く聞けない」、「食べられる食べられない」、「支配する服従する」、「喧嘩する喧嘩しない」、「大変な苦悩をあてがわれる」という繰り返しです。そこから抜け出せない思いが、天・人・地獄・餓鬼・畜生・修羅の六道の世界を感覚しているのです。六道に埋没していることに気づかされる、その手立てが仏法であり、そのような六道に迷う凡夫だからこそ、お念仏して生きて欲しいと如来から願われている存在である、とお話しさせていただきました。

ご縁のある方とぜひお参りください。



◎夏のおたのしみ会（八月六日）

美味しい焼きそばを焼いてくださる台所スタッフの皆様や、受付やお菓子配りのお手伝いをしてくださる中学生のお姉さん方がとても頼もしい存在です。食事の配膳や片付けは、お皿リレーを楽しみながら、皆様からできることをお手伝いしてもらいますが、幼児の頃から遊びに来てくれた子ども達が必要を心得て、テキパキと配膳のお手伝いをしてくれる様子に感動でした。

例年通り、本堂にも写真を掲示いたしますので、寺へお参りの際にはぜひお子様とご覧ください。

当院撮影



◎浄敬寺同朋の会について

浄敬寺では年中行事の他に様々な活動を行っています。夏と冬の法話会や、お正信偈の会、歎異抄を読む会、夏のお楽しみ会など、長年定着している活動が多くありますので、この度本山に登録し、「浄敬寺同朋の会」と名称の入った提灯を下付していただきます。諸行事には、「浄敬寺同朋の会」の名称でご案内させていただきます。今後、諸行事には本堂に提灯を飾ります。



夏休み子ども会

撮影・中村進四郎氏



来年も遊びに来てね！

☆二〇一七年後半の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

* 十三日・・・午前六時より 本堂にてお朝事

九月九日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

九月二十～二十六日 秋彼岸

* お中日 二十三日（秋分の日）

午前十時半～法話勤行後おとき

十月一日（日） 「音市場」会場

十月七日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月五～八日 三条別院報恩講

* 期間中の十組団体参拝に、ぜひご参加ください。

十一月十一日（土） 『歎異抄』をよむ会 午前九時より

十一月十五～十六日（水・木） 有縁講（宿泊・赤倉ホテル）

十一月二十六日（日） しまい講

* 午前十時半より法話・勤行・おとき

（別紙・行事予定表の日程から変更になります）

十二月十日（日） 年末法話会 講師未定

二〇一八年一月一日 修正会勤行 朝六時より

一月一～二日 年始参

* 真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

☆ご案内

三条別院『基本声明講習会』のご案内

* 日時 八月三十一日（木）、九月二十五日（月）、十月十六日（月）、

十一月十五日（水）、十二月十三日（水） 全五回

午後六時～八時

* 内容 真宗大谷派勤行集（赤本）のお勤め

* 持ち物 赤本、念珠 * 参加費 1回500円

三条別院の基本声明講習会（連続五回）の講師を准坊守・晴香が受け持つことになりました。遅い時間ではありますが、「一緒に参加できたら」というご提案をいただきました。

講習会の当日、浄敬寺を午後四時半に出発しますので、参加ご希望の方はお知らせください。帰りは午後九時頃の予定です。

『東本願寺春の法要参拝と桜の京都の旅』のご案内

宗祖親鸞聖人誕生会（音楽法要）に参詣し、桜満開の京都を巡る旅を企画致しました。詳細の案内をご確認のうえ、お申し込みください。

* 日時 平成三十年四月一日（日）～三日（火）

* 旅費 六万三千元（申込金一万元）



☆第二十七回 晴香の『真宗門徒のママ知識』

今回のテーマは

【お寺の行事には『願い』がある】です。

毎年恒例「浄敬寺夏休みおたのしみ会」について解説します。

ちよっころ
解説!

☆「浄敬寺夏休みおたのしみ会」のはじまりと願い

今から二十七年程前、平成三年に本堂の落慶法要が勤修されました。立案の段階から浄敬寺御門徒・有縁の皆様からご尽力いただき、落慶法要後には京都本山参りもありました。法要の稚児行列で頑張つて歩いてくださったお子様もお疲れ様会を…と坊守が企画したのが、初めての音楽しみ会です。気軽に立ち寄れる、幼い頃の素敵な思い出のある寺になれたら…という主催者の願いがあります。

☆プログラムから見てみましょう

午後四時から夜八時までの、盛り沢山な内容は、手探りで始めた第一回目とそれほど相違ありませんが、回を重ねながら明確になってきた願いがあります。

現在は下記のようなプログラムで開催しています。

- ① おまいり
- ② 住職からおはなし
- ③ 絵本や手話の歌
- ④ 宝さがし
- ⑤ 境内でレク
- ⑥ やきそばパーティー
- ⑦ ミニ・コンサート
- ⑧ きもだめし
- ⑨ 花火鑑賞
- ⑩ おわりのあいさつ

①②おまいり・おはなし、⑤レクでは…
お寺は気軽に来てもらえる所だと知ってもらいたい！そこで、勤行の説明やお話はお子様向けにお話します。晴香は、レク中にも仏教用語を使います。「阿弥陀様のお願い」は定番です♪

③ 絵本

図書館も近い浄敬寺ですが、お寺所蔵の他にも絵本の好きな晴香個人所蔵の絵本がかなりあります。今年は開催日が八月六日、七十二年前広島に原子爆弾が投下された日でしたので、松谷みよ子さんの『まちゃんと』という絵本を聴いてもらいました。

7

⑥ やきそばパーティー

境内に大きなブルーシートを敷き、大人と子ども、みんなで準備して、みんなで一緒に同じご飯をいただくこと。これは二十七年間変わっていません。今推進されている、「こども食堂」のハシリです！

主催者の意を汲み、半日お手伝いしてくださる食事スタッフの皆様に大変感謝しております。

⑦ ミニ・コンサート

約三〇分のミニ・コンサートが定着して十数年になります。

音楽を楽しみたいと思っても、幼い子どもや子連れの母には「入場年齢制限」という壁が立ちます。赤ちゃんや聞けるコンサートもあります。お財布に衝撃が…。それならば☆ということで、この時間はコンサートを楽しむ時間になりました。今年はヤマハ講師の先生方によるコンサートでした。過去にはバイオリン・ビオラ・ピアノのコンサートやソプラノ独唱とピアノなど素敵なコンサートの歴史があります。

⑧ きもだめしでは…

あえてお化け役は仕込まず（笑）お寺は怖い場所ではないと判ってもらいたいです。墓地にビニール紐を使ってコースを作ります。過去にはお墓参りに来られた方に驚かれたこともあります。温かく見守ってくださいました。半日だけのことで、どうかお許しください。

☆東本願寺では

本山・東本願寺でも夏休みには泊まりがけでのイベントが開催され、若いスタッフが全力で子ども達の遊び相手になってくれます。

十年ほど前になりますが、「子ども奉仕団」という二泊三日の子どもの集いに参加のため、御門徒のお孫さんと二人旅をしました。もうすっかり大人の女性ですが、本山で出会ったお友達と元気いっぱい楽しんでいた姿が忘れられず、今もお会いすると、懐かしいね〜とお話します。

「子ども奉仕団」は小学四年生から参加できます。我が子の年齢がいよいよ近付いて来ました。数年以内の京都市行きを企んでおりますので、お年頃の方にはお声掛けさせていただきます。

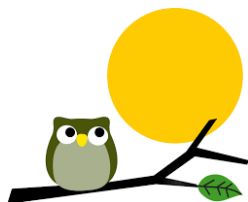
ちよっころ解説！
もう少し続きます。

☆ちよつこら解説 最後に

「人生に迷ったときに頼る事や頼る場所があること」、「宗教とは何ぞや?というのを若いうちに知ること」は、その後の人生において大事なことと思っています。生まれた不思議、生きている不思議、死んでいく不思議:迷いがちな私たちに、『それは本当のことかい?』と問いかけられ、『君は君のままで大丈夫だよ』という、大きな願いに後押しされながら、私たちは生かされています。今後とも「仏様の願い」と、「いつでもどうぞ」のメッセージを発信し続けたいと思っています。

☆ 仏教名言集 第二十二回

『月』



夜の闇を照らす月は、よく如来の光明、または仏法に喩えられます。五濁悪世の闇の中で、何に依って生きたらいいのか、どこに向かえばいいのか、そんな迷う衆生のために、如来は光(月)となり道を照らし下さっている、という喩えです。

夜に昆虫採集に行ったときに虫博士の長男から、クイズを出されました。そのクイズは「何で昆虫は外灯の光に集まるのか?」というものでした。答えは「虫は月明かりを頼りに移動するんだよ。近くに光があると月と間違えて寄ってきちゃうんだよ」でした。

本当の月の光を頼りにしないで、近くの取りあえずの光に集まり迷ってしまう、人間も虫も何だか似ていると思いませんか。

☆編集を終えて:

柏崎の花火も素晴らしいですが、お隣長岡花火はさすがの見応えです。長岡花火が長岡空襲に由来していることは皆さんがご存知のことでしょう。火薬の使い方一つで、こんなにも人を楽しませてくれるものになります。根底に切なる平和への願いがあるからこそ、あれだけの人をひきつけ、存続しているのでしょうか。続けていることには大切な願いが込められています。そんなことを思いながら、ちよつこら解説を書きました。

さて、長男が三年生になり、お習字のお稽古に通い始めました。私も長いブランクを経て再開し、母子で通っています。私も小学生の頃に四年程、休むこと十年、大学卒業後柏崎に戻ってきてから四年程、そして出産育児のお休みで十年ほど経過し、この度再開。なんと今度は「連れ」ができ、嬉しいことです。「神にも、馴れては、手ですべきことを足でするぞ」(蓮如上人御一代記聞書)という私たちの生活の中で、一つのこと丁寧に向き合うというのは、本当によい時間です。

(晴香)

☆メールアドレス

住職 tom814@kismet.or.jp

当院 minipapa@kismet.or.jp

晴香 haru310@kismet.or.jp

☆ブログ

『真宗大谷派浄敬寺』

小僧☆はるかのかの気まぐれ日記』

http://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga



入園&入学の春でした

